

白川・東白川地域 公共交通と白川病院バスの 統合構想について

加藤博和

2021.6.29

背景

- 白川・東白川の路線バスは2016年4月に大減便
 - 高校通学が困難な地域が生じる
 - 地域公共交通活性化協議会を立ち上げて改善検討。2018年10月に再スタート
 - 白川東白川線(毎日)、白川中央線(平日、下油井駅～白川病院～白川口駅～マツオカ)は濃飛バス運行
 - 蘇原・黒川・白川北・白川・佐見の各地区に予約制バス(ハイエース)を運行。白川東白川線、白川中央線に乗り継ぎやすくする
 - 朝晩はJR接続便を運行し、高校通学を確保
 - 白川町内は公共交通空白はほぼ解消(現状で白川病院にもほぼ行ける)
 - しかし多くの問題が残る
 - 白川病院通院バスが運行。路線バスと重複運行が見られる
 - 黒川～白川口駅の利用が多く、バスの復活が必要
- 白川病院通院バスを公共交通に統合することで、全体として費用低減や乗車機会増加のメリットが得られる可能性あり
- 通院者の時間の選択肢が増加。買物してから帰ることなどが可能に

方針案(白川病院と検討を進めてきた)

- 白川病院バスは公共交通に統合することを基本に考える
 - なお、白川病院バスを残置し、共同利用できるようにすることもあり得る
- 現行の白川病院通院バス利用者について、原則として公共交通で対応できるようにダイヤ等を見直す(既存利用者が引き続き通院できる)
 - 白川東白川線の通院時間帯増便、白川黒川線の新設、各路線一部便の白川病院直通化<増便分は町営バス(大新東)の運行も見込む>
 - どうしても確保できないところはフレックス便(一般タク)、サポート便(福祉タク)で運行<多くて1日3人程度と見込まれる>
 - 黒川線や予約制バスの土曜運行を確保(白川病院は土曜診療が多い)
- 白川病院がバス運行縮小による経費減の範囲内で公共交通運行費を負担(2021.5統合の大賀医院バスも同様の扱いに)
 - 公共交通は有償のため、白川病院通院者等については白川病院が運賃負担して無償とする
 - さらに、「白川病院の経費減に比べ運賃負担が小さく、白川町の負担がかなり大きくなる場合」は、白川病院が負担減を享受できる範囲で運行費負担を仰ぐ
 - 実際に運行を設定し費用を計算すると、上記の場合に当てはまったので、負担を仰ぎたい

各地区のバス運行状況(下線は今後の方向性)

地区	路線バス	JR接続便	予約制バス	フレックス便 (一般タク)	サポート便 (福祉タク)
白川	○	(←路線バス)	○	○	夏開始
東白川	○	(←路線バス)	×	× <u>→△</u> (白川病院のみ)	×
白川北	○	○	○	○	夏開始
黒川	× <u>→○</u>	○	○	○	夏開始
蘇原	三川のみ○	○	○	○	夏開始
佐見	×	○	○	○	夏開始

※東白川村は追加運行を予定しないため、村内のバス停から遠い地区は白川町のフレックス便で充当

※激変緩和のため、当面は白川病院通院バスの運行を残すところもある

必要となる車両

- 白川東白川線増便・白川黒川線新設 → 町営バスで運行を想定（スクールから捻出）
- 予約制バス → 増便不要の見込みだが、需要多数の場合は予備車を当てる
- フレックス便 → 現状は予約制バスの空きを当てている。病院バス統合で1両増車（小型）が望ましい。ただし運賃は通常の公共交通の2倍程度となる

予定(急がない)

- 2021年10月
 - 白川病院の公共交通運賃負担・追加運行費負担を開始
 - 白川東白川線増便・白川黒川線新設
 - 白川病院バス東白川線・黒川線を廃止
- 2022年10月
 - 白川町内のみ運行の白川病院バスを廃止
 - 白川病院バスが運行していた各地区の定期便を公共交通で運行開始
- それ以降
 - 白川町外に行く白川病院バスを町営バスに委託(白川病院バス全廃)
 - 付き添いが必要な乗客のための運送をサポート便に移行